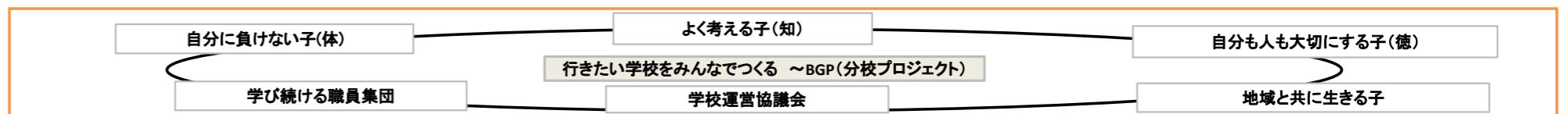


学校教育ビジョン

## 教育目標 「かしこく やさしく たくましく

## 重点目標 行きたい学校をみんなでつく

## ～BGP(分校プロジェクト)～



評価の項目	今年度の重点目標	具体的な取組	主担当	現状及び取り組み状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程 学習指導	自ら問いをもち考えを深め、次の学びにつなげる児童の育成	児童が自ら問いをもてるような環境設定を行い、自分の成長を感じられるような授業を行う。	学力づくり部	本校では、教員の設定した課題に対して解決しようと学習を進めることができる児童が多い。しかし、自分で課題を設定したり、もっと〇〇したいという思いをもつ児童が少ない。そこで、今年度は、児童が自ら課題を設定し取り組み、考えを深められるようにしていきたい。	[満足度指標] 児童が自ら問いをもち、考えを深め次の学びへとつなげられていると回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	自分で問い合わせをもち、考えを深め次の学びへとつなげられていると回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケートを実施	A	A	12月の児童アンケートでは、93%が肯定的な回答をしていた。また、ScTNでは、学びに向かう力や主体的に学習に取り組む態度はやや向上している。このことから児童の主体的に学習に取り組む態度の育成が進んだと考える。今後は、深い学びや次の学びにつながるように、問い合わせの質を高められるような授業改善をしていく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	主体的に他者と協働し、課題を探求していく児童の育成	学びを通して、意図的に児童が他者と関わる環境を設定する。	心づくり部	昨年度より児童に学びを委ねる活動を進めているが、必要感を持った関わりとは言えない。今年度は、課題解決のため主体的に他者と協働し、探求する場を設けていく。	[満足度指標] 課題解決のため主体的に探求できていたか。	課題を解決するために、他者と協働しながら探求していたと回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	A	A	12月の児童アンケートでは、97%が肯定的な回答をしていた。児童自ら選択して学ぶ機会を設けたことが結果につながった。また、目的に応じ、誰とでも遊び合う姿も見られた。今後も生徒指導の4つの視点を大切にしていく。
	児童が安心して学校生活を送れるよう努める。	問題行動シートや児童理解の会を通し、児童の小さな変化について、全職員で情報を共有し指導する。また学校生活アンケートの実施、相談活動などを通して、いじめの未然防止と早期発見・対応に努める。		昨年度、学校生活アンケートや相談活動を通して、いじめの早期発見・対応に努めてきた。本年度も計画的にアンケートや相談活動を実施すると共に、職員間で児童の小さな変化や気になる児童のことについて情報を共有する。	[満足度指標] 安心して学校生活を送ることができたと回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	安心して学校生活を送ることができたと回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	A	A	12月の児童アンケートでは、94%が肯定的な回答をしていた。児童アンケートや相談活動を実施し、全職員で児童の見取りをしてきた。職員間で児童の小さな変化や気になる児童のことについて情報を共有することを今後も継続していく。
③キャリア教育 進路指導	キャリア教育の推進に努める。	学期ごとに自分で目標を設定し、学期末に自己評価する。	心づくり部	今の自分自身を見つめ直し、目標を設定できる児童は多いが、その目標に向かって自分から前向きに努力しようとしている児童は少ないと思われる。キャリアパスポートを活用し、自己の変容を折に触れて確認しながら、主体的に学びに学びに向かう力を育していく。	[満足度指標] 学期ごとに目標を決め、達成に向けてすんで取り組むことができたと答えた児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	自分で決めた目標の達成に向けてすんで取り組めている。	7月と12月に児童にアンケート実施	A	A	12月の児童アンケートでは、93%が肯定的な回答をしていた。学期ごとに児童自身が目標を設定し、学期末に自己評価することで、自身の成長に気付くことができた。また、日々の授業においても、めあてに対しての振り返りを行うことで自身の成長に気付いていた。これらのことが結果につながったと考えられる。今後もキャリアパスポートをはじめとして、児童が自ら目標を持ち、成長を実感できるような取り組みを行っていく。
④保健管理	望ましい生活リズムを身に付け、規則正しい生活習慣の向上を目指す。	ネットモラルやメディアコントロールについて指導の機会を設け、家庭と連携しながら規則正しい生活習慣の定着を図る。学校保健委員会の議題としても取り上げる。	体づくり部	実態として、早寝・早起きの習慣が身についていない児童が増えている。その大きな要因として、メディア使用による寝不足が挙げられると思われる。行動変容につながるような取り組みが必要となる。	[成果指標] メディアコントロールを意識して、早寝・早起きを実践しているか。	実践していると答えた児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	B	B	12月の児童アンケートでは82%の児童がメディアコントロールを意識しているかという質問に対し肯定的な回答をしていた。学校保健委員会では睡眠の大切さとメディアの影響について全校で考えることができた。しかし内容を理解していても実践につなげることは難しく、一部の児童は実生活においてあまり変化が見られなかった。今後も家庭への発信をしていくとともに、学校でも継続して指導を続けていく。
	体力づくりや体育の授業を通して、運動能力の向上を図る。	体育の学習を通して、運動能力の向上、特に敏捷性を高める。(リズムアップトレーニング・ラダートレーニング・スポーツチャレいしかわの取り組み)		継続的に体力作りや学年の取り組みは行われているが、特に敏捷性に課題がある。令和5年度のスポーツテストでは、反復横跳びが2学年で県平均を下回っていた。ICT機器の活用・スポーツチャレいしかわへの積極的参加を通して、敏捷性を高め、体力の向上を目指す必要がある。	[成果指標] 体力づくりや体育の授業を通して、敏捷性を向上させることができたか。	反復横跳びの記録が、初回よりも伸びた児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	1学期は月1回、2学期からは2か月に1回に測定実施	B	B	初回よりも記録が伸びている児童の割合は、86%だった。ほとんどの児童が敏捷性を高めることができた。しかし、体力テストの結果から、体力の向上につなげることが難しかった。今後も、体力の向上に向けて、補助運動を取り入れ、BGスタイルやスポーツチャレいしかわに取り組んでいく。
⑤安全指導	日常の学校生活から児童・教職員の安全に対する意識を高めると共に危機対応力を育成する。	学校安全計画に基づき、各教科や特別活動で安全に配慮した行動について考えると共に、関係機関と連携し校内や通学路の安全確保の徹底を図る。	教頭各担当	地震や火災等の避難訓練では、適切に行動することができる児童は多い。しかし、学校生活全般において、危険な場所や危険な行動に気づかない児童も見られる。今後、自分の身を守るためにには日頃から安全に対する意識を高めておく必要がある。	[成果指標] 学校生活全般において、安全を意識することができるよう声かけや指導を行っている教師の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	学校生活(授業を含む)において、安全を意識することができるよう声かけや指導を行っている教師の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	7月と12月に教職員アンケート実施	A	A	火災や地震を想定した避難訓練により、避難時の注意点を確認することができた。また、廊下を走る児童やケガにつながるような行動をする児童、ケガの未然防止について共通指導がとれるように職員朝礼等で職員全員で確認してきた。今後も、日常からの指導により児童の安全に対する意識向上に努めていく。
⑥特別支援教育	児童の特性に寄り添った支援の組織的支援体制の確立に努める。	支援を必要とする児童及びその保護者に対して、校内支援委員会で児童の特性に寄り添った支援の在り方を検討し、SCや専門相談員等とも連携し組織的に支援に取り組む。	心づくり部	特別な支援の必要な児童及びその保護者に対して、校内支援委員会で児童の特性に寄り添った支援を検討し、専門機関とも連携して組織的に支援をしていく必要がある。	[努力指標] 支援を必要とする児童及びその保護者に対して、組織的に支援できただと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	支援の必要な児童及びその保護者に対して、組織的に支援できただと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	A	A	職員の協力体制を整えたり、外部機関と連携したりすることで、児童にとってよりよい支援を行えるよう努めた。また、困り感のある児童に対して有効である支援を検討し、対応することができた。今後も児童・保護者の困り感に寄り添い、組織として支援を検討する場を設けていく。
⑦組織運営業務改善	部会の連携を図り、効率的・効率的な業務改善を促進する。	学校運営ビジョンの具現化に向けて、児童の主体性を考慮した提案を分掌部会や主任会、運営委員会、職員会議で行い、組織的にボトムアップする。	教務教頭	職員は助け合い、組織的・効率的に活動する意識が高まっている。しかし、前例踏襲になることや児童の意識と乖離してしまう場面も見られた。児童も職員も主体的に学校づくりを行うために、目的を意識した声かけや提案を行っていく必要がある。	[成果指標] 提案を行う際、児童の主体性を引き伸ばす言葉かけや提案を行ったと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童の主体性を意識した言葉かけや提案を行ったと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	A	A	教職員は、児童に問い合わせたり考えさせたりして、主体的に活動できるよう努めた。1、2学期のアンケート結果から、複数の項目において、主体的に学んだと回答する割合が増えてはいるが、十分とは言えない。今後も、自己選択・自己決定し、学習を進められるよう取り組んでいく。
⑧研修	様々な研修に積極的に取り組み、教員としてのスキルアップを図る。	校内研修会や研究授業、授業交流、外部講師の活用など、積極的に行い、授業改善に取り組むと共に、外部研修や他校視察で学んだことについて同僚に伝えたり、伝達講習をしたりして、スキルアップをはかる。	学力づくり部	校内の研究授業や様々な研修会を実施し、教職員は積極的に取り組み、授業や学級経営などに活かしている。外部研修や他校視察で学んだことを共有し、できそうなもの、やってみたいものを取り入れ、活かしていく。	[成果指標] 本校や自身の研修で学んだことや、外部や同僚から得られた学びを活かしている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校や自身の研修で学んだことや、外部や同僚から得られた学びを活かしている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に教職員アンケート実施	A	A	教職員は、研究授業や研修会で学んだことを、自分の授業や指導に活かしていた。今後も、共通実践し、組織的に取り組むことで、学校全体の指導力を高めていく。
⑨保護者地域との連携	教育活動の発信に努め、保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりをめざす。	学校だより、学年便り等各種便り、ホームページ等で学校や児童の様子を知らせるとともに、ふるさと教育の実践をする中で、地域や保護者と連携を図る。	教頭各担当	ホームページや便り等で教育活動の発信に努めているが、学校と地域の連携や結びつきという所までには至っていない。児童が地域の一員としての意識を高めるためにも、保護者や地域を連携した活動の充実を図っていく必要がある。	[満足度指標] 学校は、保護者や地域との連携を密にし、地域に根ざした児童の育成を進めていると感じている保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	地域に根ざした児童の育成を進めていると感じている保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に保護者にアンケート実施	A	A	デジタルウォーカーラリー等、全校で地域の人材や地域の施設を積極的に活用、発信してきたことにより、保護者、地域の学校に対する理解が深まった。しかし、学校生活全般の児童の様子をホームページを通して発信してきたが、十分とは言えなかった。今後も地域の人・もの・ことを大切にした教育を推進していくとともに、日頃からの情報発信に努める。
⑩教育環境整備	児童が安全で安心して学校生活を送れるよう、教育環境整備に努める。	計画的に校舎内外の整備に努め、学習しやすく働きやすい環境づくりに努める。毎月の管理場所の安全点検を通して、不備な箇所の施設の修繕を行う。	総務各担当	学校運営協議会での老朽化による安全面や衛生面に関する指摘や能登半島地震の影響から、まだ見えない箇所の危険等も考えられるため、今後より注意深く環境の把握に努める必要がある。	[努力指標] 教育環境の整備に積極的に取り組んでいる職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教育環境の整備に積極的に取り組んでいる職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7、12月に教職員にアンケート実施	A	A	地震の影響や老朽化による修理箇所については、教育委員会と連携し対応できた。また、ホワイトボードの購入やプレイルームの整理により、児童が考えを交流する場が増えた。今後も、児童が安全に、落ち着いて学べる環境を整えるため、日常の整理整頓、必要な情報交換に努める。

・地域と連携した学習が子どもたちにとって良い学びの機会となっていることを確認でき、協力している側としても大変うれしい。地域と連携した学習に対する、子どもたちや先生方の感想をぜひ地域の皆様にも発信し、地域と学校の連携を今後も図っていってもらいたい。

・デジタルウォークラリーは、地域を楽しく理解できるとてもよい取組みだと思う。当日、悪天候になり実施できていなかったのは残念だった。今後、何かの機会に取り組ませてあげてほしい。

・SNS等の使用時間が長くなっていることは、保護者としても憂慮している。こども園でも、子育ての中でタブレットで動画などを利用している保護者は多く、利用の低年齢化を感じる。現代の子どもたちはデジタルと上手につきあっていく必要があるので、制限だけでなくデジタルと

上手に付き合っていくことを学校や家庭でも教えてもらおう。

・ホワイトボードを使って子どもたちが考えを交流するような授業は、これまでには見られなかった光景である。これからも子どもたちの学びが深まるように有効に学校予算等を使っていってもらいたい。